

Job control, work-family balance and nurses'
intention to leave their profession and
organization : A comparative cross-sectional
survey

山口, 善子

<https://doi.org/10.15017/1789434>

出版情報 : 九州大学, 2016, 博士 (看護学), 課程博士
バージョン :
権利関係 : 全文ファイル公表済

氏名	山口 善子
論文名	Job control, work-family balance and nurses' intention to leave their profession and organization : A comparative cross-sectional survey (仕事コントロール、ワーク・ファミリー・バランスと看護師の看護師離職意思・職場離職意思：比較横断研究)
論文調査委員	主査 九州大学 教授 藤田 君支 副査 九州大学 教授 鳩野 洋子 副査 九州大学 教授 谷口 初美

論文審査の結果の要旨

看護師の不足は世界的に問題となっているが、日本では看護師の偏在も問題となっており、訪問看護事業所と介護系施設は、病院よりも看護師の不足が深刻である。本研究では、看護師の仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクトの程度と、各要因が離職意思に及ぼす影響の大きさについて、病院、訪問、施設を比較し、就業場所による相違について検証することを目的とした。本研究は質問紙調査票を用いた横断研究である。本研究への参加を承諾した九州の病院9カ所、訪問看護事業所86カ所、介護老人保健施設・介護老人福祉施設107カ所に勤務する看護師を対象とし、仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクト、離職場意思、看護師離職意思を測定した。

本研究の分析対象は1461名（回収率：81.7%）で、看護師の仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクトの程度と、各要因が離職意思に及ぼす影響の大きさは、就業場所別に異なっていた。病院看護師の離職意思にはワーク・ファミリー・コンフリクトが、訪問看護師の離職意思には家族要因が、施設看護師の離職意思には仕事コントロールが最も影響していた。

看護師の離職防止策は、各就業場所の看護師の特徴を踏まえて策定するべきである。病院では、看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトを軽減すること、訪問看護事業所では、家族役割を遂行出来るよう支援すること、施設では、仕事コントロール獲得を支援することが離職防止につながる。本研究は様々な場所で勤務する看護師の離職防止に向けた方策を示唆したもので、意義ある結果と考えられる。

予備調査において、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが、いずれについても適切な回答を得た。

よって本論文は予備調査委員合議の上、博士（看護学）の学位に値する論文として価値あるものと認める。